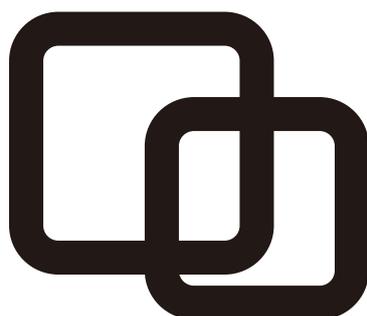


2012年度

CSRイノベーション ワーキンググループ活動報告書

「エコのまど」



目次

参加企業の成果

- 01 旭化成ホームズ株式会社
旭硝子株式会社
- 02 株式会社イトーキ
一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区
まちづくり協議会
- 03 株式会社 大林組
鹿島建設株式会社
- 04 企業間フューチャーセンターLLP
小岩井農牧株式会社
- 05 株式会社サンケイビル
清水建設株式会社
- 06 ダイキン工業株式会社
大成建設株式会社
- 07 NPO法人 大丸有エリアマネジメント協会
株式会社 竹中工務店
- 08 株式会社ティップネス
一般財団法人 電力中央研究所
- 09 株式会社東京国際フォーラム
東テック株式会社
- 10 トーマツグループ
戸田建設株式会社
- 11 株式会社日本政策投資銀行
日本郵船株式会社
- 12 バイエル マテリアルサイエンス株式会社
株式会社日比谷花壇
- 13 前田建設工業株式会社
丸の内熱供給株式会社
- 14 三菱地所株式会社
株式会社三菱地所設計
- 15 株式会社 三菱UFJフィナンシャル・グループ
ヨシモトポール株式会社
- 16 エコツヴェリア協会
三菱電機株式会社

17 CSRイノベーションを 起こすための参考文献

振り返り

18 2012年度CSRイノベーション WGの振り返り

インタビュー

20 「CSRイノベーションと フューチャーセンター」

櫻井亮 (NTTデータ経営研究所) × 田口真司
(エコツヴェリア協会、[インタビュー時] 企業
間フューチャーセンターLLP)

24 CSR活動一覧表

まえがき

『エコのまど』——。

あなたは、どんな思いで、この報告書を手にとりましたか？

「いろんな企業のCSR活動を知りたい」

「表紙がかっこいい」

「社会貢献のヒントが欲しい」・・・

様々な思いで手にしたその行動こそが、私たち「CSRイノベーションワーキンググループ(WG)」の活動と出会う「まど」であると考え、2009年からこの報告書『エコのまど』を制作しています。

CSRイノベーションWGとは、エコツェリア協会が運営する「丸の内地球環境倶楽部」の研究会のひとつ。大手町・丸の内・有楽町地区が目指す「サステナブル(持続可能)な環境共生型都市」に共感する32の企業・団体の広報やCSR担当者が集い、これからの時代の環境・CSR活動とはどういうものなのか、ともに学び、考えています。

サステナビリティ(持続可能性)やCSV(共通価値の創造)、環境経営といったキーワードが注目される今。環境やCSRの取り組みは、自社と従業員、自社と消費者だけのために取り組むものではないと、多くの企業人が気づき始めています。

そんな中で、企業が、他社とも知恵を出し合い、これからの社会に必要な価値を、環境的視点、CSR的視点で見出し、イノベーションに取り組むCSRイノベーションWG活動は、参加者の意識や行動を変えるのはもちろん、企業価値の創造にもつながると考えています。

報告書のはじめにご紹介しているのは、このWGの学びの中から制作された、各企業のCSR活動を表現したポスターです。参加者自身でデザインやキャッチコピーを考えたポスターには、それぞれの企業カラーが出ていていると思います。ぜひお楽しみください。

この報告書という「まど」を通して、WGでの学びの成果をご覧いただくとともに、私たちが作りだしたい社会の姿、企業の姿、人の姿も、感じていただければと思います。

平本 真樹
エコツェリア協会
丸の内地球環境倶楽部
CSRイノベーションWG事務局

参加企業の成果

ワーキング「CSRイノベーション」の一年間の成果を、ご覧下さい。

「参加企業の成果」の読み方

今年度も、ワーキング参加者自ら、所属企業のCSR活動の素晴らしさ、面白さを表現するポスターを制作しました。写真も、コピーも、グループで励まし合いながら考えたものです。また、ぜひ説明文も合わせて読んでみてください。より背景のストーリーが伝わってきます。

旭化成ホームズ株式会社



©旭化成ホームズ株式会社

しっかり建て、しっかりメンテナンスをすることで、いつまでも快適に過ごせる家。それが旭化成ホームズのロングライフ住宅です。建てては終わり、建てては壊すのではなく、長く住み継いでいける家が、私たちの環境貢献です。限られた資源を活かします。強い骨格、高い防火性は家族を守り、価値を維持し、社会的なストック住宅をつくります。

旭硝子株式会社

AGC（旭硝子）グループは、事業展開する地域特有の社会課題の解決に貢献すべく、社会貢献基本方針の重点分野「人づくり」「地域との共生」「自然環境への貢献」のもと、様々な活動を実施しています。

- 〈主な活動例〉
- ・インドネシア「水質パレットピッキング」を通じて地域の雇用機会を創出
 - ・米国：地域から使用済み電子機器を回収する環境貢献イベントを開催
 - ・日本「森林ボランティア活動」として、木々の健全な成長を促す間伐作業を実施



©旭硝子株式会社

旭化成ホームズ株式会社



ご担当：設計推進本部 伊藤大輔

しっかり建て、しっかりメンテナンスをすることで、いつまでも快適に過ごせる家。

それが旭化成ホームズのロングライフ住宅です。

建てては終わり、建てては壊すのではなく、長く住み継いでいける家が、私たちの環境貢献です。

限られた資源を活かします。

強い骨格、高い防火性は家族を守り、価値を維持し、社会的なストック住宅をつくります。

旭硝子株式会社

AGC(旭硝子)グループは、事業展開する地域特有の社会課題の解決に貢献すべく、社会貢献基本方針の重点分野「人づくり」「地域との共生」「自然環境への貢献」のもと、様々な活動を実施しています。

〈主な活動例〉

- ・インドネシア：「木製パレットビジネス」を通じて地域の雇用機会を創出
- ・米国：地域から使用済み電子機器を回収する環境貢献イベントを開催
- ・日本：「森林ボランティア活動」として、木々の健全な成長を促す間伐作業を実施



ご担当：CSR室 土居義岳

株式会社イトーキ

3



「省エネ快適照明システム エクトル」とは、必要な場所に必要なあかるさを——そんなあたりまえを実現する照明システムです。照明の省エネルギー化には効果的な、タスク・アンビエント照明方式を応用し、LEDによる省エネルギー化の追求と、綿密な設計による快適性の両立を実現しました。

ご担当：Ecoソリューション企画推進部 海野亜希子

一般社団法人 大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会

4

大丸有協議会は、当地区の地権者が集まり、世界有数の国際的なビジネスセンター構築に向け、ハード・ソフトの両面からまちづくりを推進しています。東京都・千代田区・JR東日本とともに公民協調のもと「まちづくりガイドライン」を策定し、都市基盤、都市観光、環境、防災・防犯、エリアマネジメントなど様々な要素において時代に即したまちの進化を続け、サステナブルコミュニティの実現を目指しています。



ご担当：大丸有地区まちづくり協議会 環境エリアマネジメント委員会

株式会社 大林組

5



私たちには、時代とともに培ってきた技術力とノウハウがあります。安全・安心を実現するインフラ整備への挑戦は、皆様の生活や事業環境を自然災害から守るだけでなく、より豊かな社会の構築を実現します。

これからも、地球に笑顔を届けるための挑戦は続きます。

ご担当：CSR室

鹿島建設株式会社

6

1914年に完成した東京駅丸の内駅舎。重要文化財としての保存と、戦災で失った3階部分の復原、さらには次世代に安全・安心を加えて受け継ぐべく免震化を行いました。着工から4年半、施工に携わった人々は延べ86.5万人。毎日70万人が利用する東京駅の運用を妨げることなく施工を実施。100年前の伝統技能を随所で用い、最新の技術と鹿島の総合力によって、安全で安心・快適な駅舎としてリニューアルさせました。



ご担当：広報室 CSRグループ 内田富貴子

企業間フューチャーセンターLLP

7



人・組織・社会をつなぐ
対話からはじまる新しい未来づくり

多様な人を集め、対話によって未来社会を考えるワールドカフェ形式のイベントを行っています。

イベントで得た気付きなどを更に昇華させる全体ワークショップや、協力企業様との共催イベントも実施しています。

人のつながりによって新たな価値を生み出し、異なる企業で働く人が連携しあってビジネスを創り出すことが最終の目的です。

参加者全員が夢を描き、自発的に歩み続けることを目指します。

ご担当：宮地悠夏

小岩井農牧株式会社

8

1891(明治24)年、荒野に一本の苗木を植えることから始まった小岩井農場。以来、山林や酪農をはじめ農林畜産の生産活動において、環境と共生した持続型・循環型の事業運営を行い、次の一世紀を見据えた持続可能な農場を目指してきました。

長い歳月をかけて育んできた豊かな自然環境、景観、歴史や文化等、小岩井農場の取り組みを参加型プログラム「ガイド付きツアー小岩井農場物語」を通じて、多くの方に伝える活動に取り組んでいます。



次の一世紀を見据えた
持続可能な農場を目指して

ご担当：経営開発室 大西智子

株式会社サンケイビル

9



もっとひとりひとりのなかへ。
人にも地球にも優しいオフィス。

ご担当：広報課 松井由佳子

東京サンケイビル（千代田区大手町）は、より快適なオフィス環境を提供する為、これまで基本仕様だった高効率インバータ（Hf）蛍光灯から、更に省エネ・省コストを実現するLED照明及び調光制御システムを順次導入しています。これにより、年間コスト約60%強ダウンが可能に。

サンケイビルのオフィスは、安心・安全で省エネに配慮した、人にも地球にも優しいオフィスであり続けます。

清水建設株式会社

10

東日本大震災以降、施設・街・社会には、様々な災害に対する回復力・弾力がより一層求められるようになりました。当社は、企業の事業継続（BCP）や生活の継続（LCP）のためには、災害に対して安全・安心な施設とエネルギーの自立性確保などの「BCP対策」が必要だと考えます。同時に、平常時の地球規模での省エネルギー、CO2削減という「eco対策」も可能にする「ecoBCP」という考え方を基に、持続可能な社会基盤づくりに取り組んでいます。



安全で地球にやさしい街づくり!!

ご担当：建築事業本部 第二営業本部 中村孝之

ダイキン工業株式会社



わくわくする未来の空気=みんなの空気

ダイキン工業は「次の“欲しい”を先取りし、新たな価値を創造する」を実現するために、お客様との接点を増やし、ご意見・お悩みを製品開発につなげています。2011年12月にオープンした体験型ショールーム「フーハ東京」では、専門のスタッフがお客様の生活環境や空調に対する不満・悩みをお伺いして、最適な空調をご提案。また定期的に空気の学校を実施し、次世代を担う子供たちと未来のエアコンをみんなで一緒に考えています。

ご担当：アプライド・ソリューション事業本部 営業部 販売促進グループ 篠原 葵

大成建設株式会社

ボルネオ島に樹を植えよう！「一口500円→苗木一本」で社員から寄付金を募り、約1800本の植樹を行いました。植えたのはオランウータンが大好きな果実が成る樹木です。今、ボルネオ島では熱帯雨林の減少で自然の住処をなくし、保護される動物が増えています。私たちは植樹の他、野生動物の保護施設建設に対するサポート等を行っています。多くの生きものが共存し、いきいきと生活できる環境を創造する、これが私たち大成建設の目指す未来です。



環境本部 部長

植エルカム！ボルネオの森へ。

ご担当：環境本部 宇高明日美

NPO法人 大丸有エリアマネジメント協会

13



当協会では今年、東京・大阪・名古屋の街づくり団体と共に3都市フォーラム「環境まちづくりフォーラム2012」を開催しました。このフォーラム開催を通じて参加各都市のエリアマネジメント組織・団体が意見を交わし、課題の共有と改善策の提言を行うなど、全国の“まち”と“まち”のネットワーク構築に大きく寄与することができました。

つなごう“まち”と“まち”未来につながるまちづくり

ご担当：事務局 井上幸子

株式会社 竹中工務店

14

2012年10月13日、14日の2日間、石巻市中央の商店街を借り切り、職業体験イベントを地元とボランティア団体で主催し当社も協力しました。ハローワークで仕事探し、ものづくり、お給料で買い物をするなど実際の経済の仕組みを子どもたちが体験しました。2日目は商店街を歩行者天国にし、通りにはナゴヤドームで使用した人工芝を敷きつめ、自由に遊びまわられるようにしました。参加者は2日間で1,700人を超え、予想をはるかに上回る結果となりました。



職業体験イベント
「子どもものまち・いしのまき」に協力

ご担当：CSR推進部 綿谷 実

株式会社 ティップネス

15



遊びにも理論プラスでエコBODY

2012年秋に開催した“大人の缶けり”。カラダを機能的に動かすファンクショナルトレーニングです。理論をしっかり備えていればどんな行動も立派なトレーニング！エコBODYは頭と体で誰にでも手に入れることができるもの。これからも楽しみながらトレーニングできるサービスをご提供して参ります。

ご担当：ティップネス丸の内スタイル 山下朋恵

一般財団法人

電力中央研究所

16

スマートグリッド、ヒートポンプ、バイオマス……私たちは社会のニーズに応えるため、常に先を見据えた研究に取り組んでいます。世界一高いタワーである東京スカイツリーも貴重な研究フィールド。まだまだ分からないことも多い雷の特性を解明し、建造物や設備の対雷対策に生かすために、私たちは世界で誰も作ったことのない唯一の構造を持つ雷観測装置を建造物では最も高い位置である地上497mに設置し、データを収集しています。



前略 雷様
地上497mでお待ちしています！

ご担当：総務グループ 田中 遼

株式会社東京国際フォーラム

17



東京国際フォーラムは、「集いを歓びに」をモットーに、多様な人たちが行きかい、交流し、そこから次代の文化が生まれる広場でありたいと願っています。そのモットーをかたちにするために、東京国際フォーラム発オリジナルイベントを開催しています。中でも毎年夏休みに開催している「丸の内キッズジャンボリー」は、子どもたちに、ここでしか学べない本物との出会いや、ワンダーな体験を提供しています。

学校では学べないことが学べる、丸の内。

ご担当：企画事業部 鈴木順子

東テク株式会社

18

快適な環境づくりには、物質的な面だけではなく精神的な快適さが必要です。

東テクグループは、『空調設備のトータルプランナー』として利便性だけではなく、人を大切にし、人にやさしく、地球にもやさしい、こころ豊かな快適環境づくりを進めて参ります。



ずっとここに居たい
そう思わせる空間に

ご担当：経営企画本部 人事部 大橋和宏 福岡真里恵

トーマツグループ 19



パパはお花を植え替え中。

トーマツグループでは、各地域の環境保全や美化も重要な社会貢献活動と位置づけています。日比谷公園の花壇の植え替えボランティア活動は、今年で7年目。多くの人々が訪れる公園がオフィス街の憩いの場となるよう家族や友人を連れて楽しみながら活動を行っています。作業中、花壇の周りで遊ぶ子どもたちの声が響き、いつもとは異なって見えるオフィス街の空に、ボランティア参加の大人たちの笑顔も自然とほころびます。

ご担当：CSR推進室 田中祥子

戸田建設株式会社 20

アイデアでつくろう。
情熱でつくろう。
さまざまな人の想いを
つないでつくろう。
アタマとココロを使って
人間にしかできないものづくりを
目指して。
人がつくる。人でつくる。
それが戸田建設のやりかたです。



人がつくる。人でつくる。

ご担当：環境事業推進室 樋口正一郎 本多亜紀、CSR推進室 佐藤孝一、経理部 小幡恵子

株式会社日本政策投資銀行

21

DBJは環境配慮型経営に向けた
お客様の取り組みを支援します。



ご担当：経営企画部広報・CSR室 松口美穂

2004年度より開始した世界初の「DBJ環境格付」融資。DBJが独自に開発したスクリーニングシステムにより、企業の環境経営度を評点化し、得点に応じて3段階の金利を適用するこの融資メニューでは、これまでに累計で6,000億円を超える融資を実施しています。DBJはこれからも、投融資を通じて持続可能な社会の実現に貢献します。

日本郵船株式会社

22

日本郵船グループは海・陸・空にまたがるグローバルな総合物流企業グループとして、環境保全対応を重視した「モノ運び」を通じ、人々の生活を支えています。

船舶の運航では、きめ細かい船舶運航管理システムや太陽光発電の活用などにより、CO₂排出量と燃料消費量を削減しています。また、船体と海水の摩擦抵抗を低減する空気潤滑システムの開発・実用化など、地球温暖化抑制の技術開発を積極的に進めています。



ご担当：CSR推進グループ CSR推進チーム

バイエル マテリアルサイエンス株式会社

23



カルク世界一周目指します。

バイエルは、2013年に創立150周年を迎えます。私たちはミッションステートメント「よりよい暮らしのためのサイエンス」を掲げ、製品とサービスは人々のクオリティ・オブ・ライフ(QOL)の向上に貢献することを目標としています。2015年に世界一周を予定している太陽光エネルギーだけで飛行する世界初の有人飛行機ソーラー・インパルスの軽量化に貢献するソリューションを開発しています。バイエルはソーラー・インパルスプロジェクトのオフィシャルパートナーです。

ご担当：広報本部 梅澤千絵

株式会社日比谷花壇

24

3.11東日本大震災。今なおその傷跡は被災地、そして人々の心の中に残っています。

私たちは2011年に引き続き、首都圏で育てられた「ひまわりの苗」を被災地へ送り届けました。さらに地域の皆さんと一緒に仙台名取空港滑走路横に大きなスマイルマークのひまわり畑を創りました。被災地から世界の人々へ感謝の心を込めて「東北は元気だよ!」の「メッセージ」を発信します。

花と緑の力を信じて。

ようこそ東北へ!



スマイル空港、まもなくタッチダウン!

ご担当：日比谷花壇グループ環境事業推進室 越智正夫 山田祐衣



前田建設工業株式会社

25



地球も未来も、大切なステークホルダー。

ご担当：CSR・環境部 渡辺千尋

地球への配当。それは私たちの事業に投資してくれている「地球」に、連結純利益の2%を還元し、国内外の環境保全活動に拠出するしくみです。「お父さん、木植えるの楽しかった。」目を輝かせて語る子どもたちの笑顔、豊かで美しい自然を未来へ。私たちMAEDAは、地球と未来にできることを、地域やNPOの皆様、そして社員と家族がともに考え、ともに実践しています。



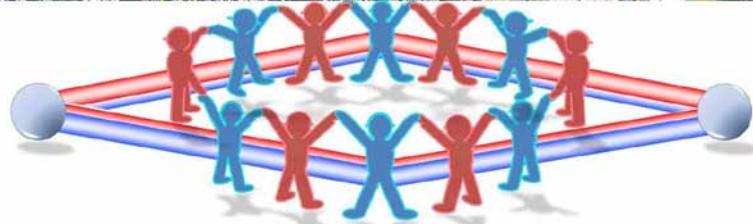
丸の内熱供給株式会社

26

大手町・丸の内・有楽町の地下に血管のような熱の配管網があることをご存知でしょうか。

私たちは19の熱供給プラントから各ビルに冷水や蒸気を供給する地域冷暖房事業を行っていますが、配管網をつないで輪を形成することによって、省エネルギーを図り低炭素な都市を支えています。

再開発に伴う最新プラントをネットワークにつなぎ、信頼性を向上させると共に、最新の高效率機器を共有してベース運転させることによって地域全体エネルギー効率を向上させています。



つないだ輪で都市を支えます

ご担当：佐藤文秋

三菱地所株式会社

27



この10年間で丸の内は様変わりしました。街に人々の憩いがあり、触れ合いがあり、交流がうまれ、活気と潤いのある「世界で最もインタラクションが活発な街」をめざしています。

「人を、想う力。街を、想う力。」三菱地所グループはチャレンジを続けます。

ご担当：環境・CSR推進部 齋藤由佳

株式会社三菱地所設計

28

丸の内永楽ビルディングでは実用化の可能性が出てきたLED照明を、改良検討を重ね大規模オフィス空間として初めて基準階オフィスフロア全採用を行いました。

また、LEDの特性（小型、発熱の少なさ）により、必要な箇所に適量の光を与えることが可能となり細やかな光の演出を行いました。特にエントランスでは、様々な素材と優しくこぼれる光の空間やエレベータ内のガラスアートを組み込む等細やかな作り込みを行なっています。



ご担当：建築設計五部 田村浩之

株式会社 三菱UFJフィナンシャル・グループ



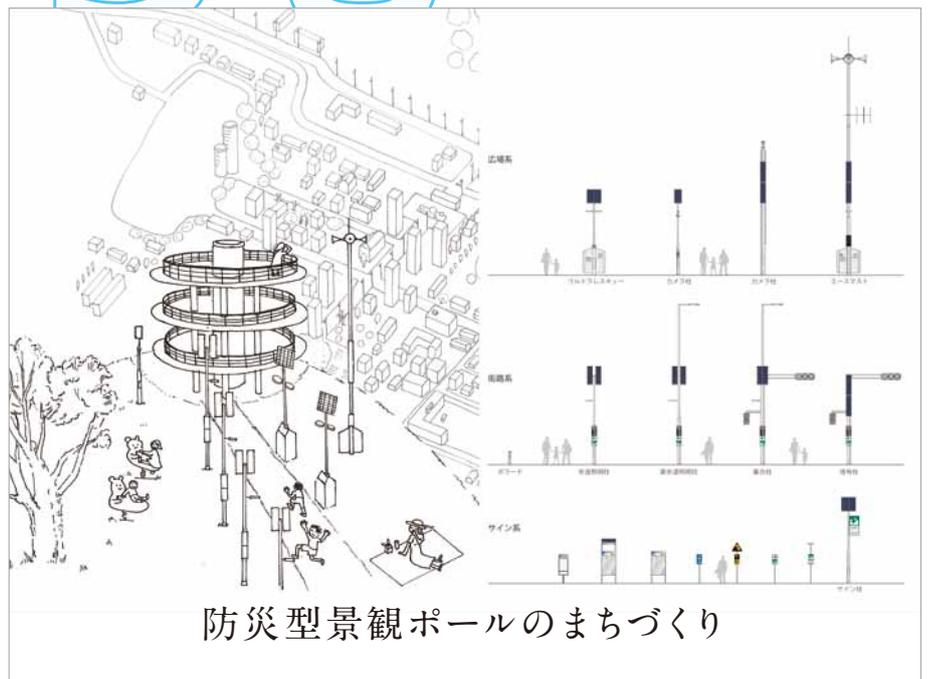
MUFGグループでは、グループ各社に呼びかけ、中長期的な視点から復興支援につながる取り組みに力を入れています。

三菱東京UFJ銀行では、日本ユネスコ協会連盟と共同で「MUFG・ユネスコ協会東日本大震災復興育英基金」を創設し、震災による遺児・孤児に奨学金を給付するのに加え、学校花壇再生プログラム等を運営しています。

ご担当：CSR推進部 羽根田真

ヨシモトポール株式会社

3.11の東日本大震災以降、緊急時に安全でわかりやすく避難場所へ誘導する施設の計画が必須だと考えられています。ヨシモトポールは、景観と防災事業に長く関わってきた経験から、日常になじむトータルデザインで「防災型景観ポールのまちづくり」を進めています。



ご担当：営業本部 鈴木幸男、設計開発室 デザインチーム 田邊智哉子

エコツェリア協会

31



エコツェリア協会は、地球・地域の環境に関する課題の解決を通して、大丸有地区の持続的な発展を実現するべく様々な活動を展開しています。

フリーペーパー「^{シェア}ISM」では、「社会にとっての価値」と「企業にとっての価値」を両立させる経営コンセプトCSV (Creating Shared Value)を「個人にとっての価値」まで広げるCSV流ライフスタイルを提案しています。

ビジネスの中心地・丸の内から全国に発信する新しいメッセージです。

ご担当：都市計画事業室 平本真樹 大木美和

三菱電機株式会社

32

MITSUBISHI
三菱電機
Changes for the Better

三菱電機はエコチェンジで、
グローバル環境先進企業をめざします。

私たちは今、環境に配慮した豊かな社会を構築するために「エコチェンジ」を推進しています。

幅広い事業領域、優れた製品力、そして世界最先端の機械技術により、
低炭素社会・資源循環型社会の実現にチャレンジ。
これからも、「より良い明日」のために挑戦し続けます。

社会のエコチェンジ。
環境・エネルギー・交通などさまざまな分野で、最先端の技術と豊富な製品ラインナップにより、持続可能な社会の実現に貢献しています。

ビジネスのエコチェンジ。
ビル、オフィス、工場など、さまざまな環境ソリューション（環境システム）を提供し、社会全体の環境に貢献しています。

くらしのエコチェンジ。
空調・照明・エネルギー・電気機器「環境・省エネ」製品、家電製品など、さまざまな製品で、暮らしをより良くしています。

三菱電機株式会社

三菱電機は、グローバル環境先進企業へ。

CSRイノベーションを起こすための参考文献

本ワーキンググループ講師の田口真司氏に、CSRイノベーションを考え、起こすために読むべき本10冊を推薦していただきました。



1 考えてみる

大久保寛司/文屋/1,260円(税込)

毎日5分、人としてのあり方を考える一冊です。CSRやCSV活動を目指す上で、人生を見直すきっかけにもなります。



2 ゼロのちから——

成功する非営利組織に学ぶビジネスの知恵11

ナンシー・ルブリン/英治出版/1,890円(税込)

ヒト、モノ、カネを含めて「何もないこと」、つまり「ゼロ」であることが、逆に今のビジネスでは力を持つかもしれません。



3 ビジネス寓話50選

～物語で読み解く、企業と仕事のこれから～

博報堂ブランドデザイン/アスキー・メディアワークス/820円(税込)

企業と生活者が共創して社会デザインする今後10年の歩み方を、寓話を通じてイマドキに解説。寓話の本質は、未来にも通じます。



4 外資金融では出会えなかった日本でいちばん投資したい会社

鎌田恭幸/アチーブメント出版/1,470円(税込)

いい会社に投資をし、いい会社を生み出していく。実際に鎌倉投信様が実践している内容です。そんな活動を世の中に広げましょう。



5 U理論——

過去や偏見にとらわれず、本当に必要な「変化」を生み出す技術

オットー・シャーマー / 英治出版 / 3,675円(税込)

複雑な課題が増える現代において、これからのあり方を考えるための一冊です。未来を創りだしていくために必要な要素が記述されています。



6 イノベーションのジレンマ——

技術革新が巨大企業を減ぼすとき

クレイトン・クリステンセン/翔泳社/2,100円(税込)

大きな成功が逆に足かせとなってしまうことが多いですが、イノベーションを求められる企業が大切にすることは何か、成功だけでなく失敗の本質にも迫る本です。



7 幸せな小国オランダの智慧

紺野登/PHP研究所/777円(税込)

不確実性に強い知的弾力性を高めるために、オランダから学ぶところは多くあります。フューチャーセンター分野でご活躍の紺野先生による語りは日本での活動にも参考になります。



8 質問会議 なぜ質問だけの会議で生産性上がるのか？

——時代を超える生存の原則

清宮 普美代/PHP研究所/1,260円(税込)

いつもの30分の会議を質問形式に変えるだけで本質論議が可能になります。意見をせずに質問のみをすることは、意外と難しいことです。新たな会議にチャレンジしてみませんか。



9 ワールド・カフェをやろう!

香取一昭、大川恒/日本経済新聞出版社/1,680円(税込)

日本のワールドカフェ師範的な香取様、大川様が、ワールドカフェについて紹介しています。手法や多くの事例があり、自分に合った対話手法を見つけられます。



10 フューチャーセンターをつくらう——

対話をイノベーションにつなげる仕組み

野村恭彦/プレジデント社/1,680円(税込)

フューチャーセンターとは何か、なぜ現代に必要なのか、が説かれています。概念だけでなく、実践に向けてのヒントが満載です。

2012年度 CSRイノベーションWGの振り返り

「未来を想像し、次の時代のCSRを実践し、体感する」をテーマに、新しいコミュニケーション手法を用いたワークショップを8回にわたり実施しました。

2012年6月18日 第1回

CSRへの固定観念を壊し、イノベーションを起こすには

まずはCSRの常識を否定。そのうえで否定したCSRの実現方法を考える。言ってみれば「さかさまCSR」という難しいテーマに挑戦。常識の枠を外すのに苦労しつつ、グループワークで助け合いながら奮闘しました。

2012年9月12日 第3回

未来のCSRを象徴するイベント、丸の内でするなら？

ゲストは鎌倉投信の新井和宏氏。原点に立ち戻り、「いい会社ってなんだろう？ いい社会ってなんだろう？」を考えようとして、ワクワクするCSRの将来像を体現するイベントのアイデア出しを行いました。

2012年11月21日 第5回

「社食」イベントアイデアが実現に向けて動き出した！

「社食」イベントのプロトタイプ実施に向け、「せっかくこのメンバーで行くのであればただ食べに行くというのではもったいない！」ということで、「らしい」ツアーにすべく意見交換を行いました。

2012年1月23日 第7回

頭ではなく、手で考えるデザイン・シンキングの手法を実践

ペアで互いに「CSRイベントに参加した経験」をインタビュー。そこで得た本当のユーザーニーズを、粘土、折り紙など用意された素材を使ってリアルなカタチにして表現。「Think To Build」から「Build To Think」を体感しました。

2012年7月27日 第2回

子どもころのワクワクから発想。CSRの将来像を可視化する

社会が求める未来のCSRの姿を、言葉や文字だけでは伝わらない、対話のなかで生まれた思いや理解を「絵巻物」として描き上げる「グラフィックファシリテーション」という手法を用いて、共有しました。

2012年10月10日 第4回

電車ごっこ・宝探し・ミ社食ラン……イベントアイデアを掘り下げる

数多く出たアイデアを集約、整理。主人公のペルソナやイベント実施のストーリーを想定し、企画概要に落とし込みました。さらにCSRのエッセンスをどう付加していくのかを検討し、実現可能性を探りました。

2012年12月18日 第6回

意外性がある感情に訴えるCSRポスターづくりに挑戦

目指すは、記憶に焼き付くアイデアで、見る人の意識をシフトさせること。写真と組み合わせたコピーをつくる個人ワークとグループワークを反復しました。

2012年2月14日 第8回

実現したパソナグループ「社食」ツアーを振り返って

これまで練り上げてきたイベントアイデアのプロトタイプとして、1月30日に実施した株式会社パソナグループ「社食」ツアーを振り返り、参加者の感想をもとに、内容や進め方など課題について検討しました。

詳しいレポートは丸の内地球環境新聞より、ご覧いただけます。

<http://www.ecozzeria.jp/shimbun/>



第1回 初対面のメンバーも多いなか「さかさま CSR」をテーマに奮闘。



第2回 対話の流れが「絵巻物」に。講師はやまざきゆにこ氏。



第3回 ワクワクするCSRのお題には、自然と会話が弾みました。



第4回 各グループのイベントアイデア発表、熱弁に注目！



第5回 「社食」のリアルな各社事情から個人的な思い出話まで話が広がりました。



第6回 ポスターに使う写真やコピーを持ち寄り、グループ内で真剣に相談。



第7回 「Build To Think」の結果出来上がった作品。



第8回 今年度を通じてファシリテーターを務めた櫻井亮氏（NTTデータ経営研究所）。

CSRイノベーションとフューチャーセンター

櫻井亮(NTTデータ経営研究所)×田口真司(エコツェリア協会、[インタビュー時]企業間フューチャーセンターLLP)

イノベーションを生み出す場づくりとして注目されている「フューチャーセンター」。フューチャーセンターの考え方を生かして、CSRイノベーションを起こすには？本ワーキング講師の櫻井亮氏、田口真司氏に話を聞きました。

フューチャーセンターとは何か？

——フューチャーセンターとはどのようなものなのでしょう？

田口 ● 一言で説明するのは難しいですが、あえて言うなら、それぞれの人にとっての新しい未来、素敵な未来を、主体性をもって皆で作りあげていくこと、というのが一つの答えになると思います。自らが作りたい、自らが聞きたいものを、共通課題をもつ人や、自分とまったく違う立場にいる人と集まって、何かを生み出していく場なのだと思います。

とくにこの主体性というのが重要で、企業として、自分自身として、こういうものが作りたいというものがないと、ただ集まってください、意見を聞かせてください、と言っても進む方向は見えません。自身のなかで、こっちに進みたいという思いがあってはじめて、大きな幹に育てていくことが可能なのだと思います。

櫻井 ● フューチャーセンターは96年に、スウェーデンの保険会社、スカンディア社が設立したのが発祥だと言われています。以後、欧州を中心に企業のほか、オランダ政府、デンマーク政府などが続き、現在は数十カ所に開設されています。

面白いことに、90年代に欧州でフューチャーセンターが勃興してきた時代と、現在の日本の状況はとても似ているんですね。90年代といえば、米国でシリコンバレーから次々と新しいイノベーションが生み出された時期と重なります。欧州はその危機感から、シリコンバレーを研究し、意図的にイノベーションを起こすような場をつくらうとした。その流れで、オランダやデンマーク、スウェーデンには、イノベーションに関する省庁がつくられていて、国が先導しつつ、イノベーションに取り組ん

でいるのです。

興味深い事例の一つが、イノベーションラボ(デンマーク)です。とにかくイノベーションを起こすことに特化して、アイデアを広げるためのさまざまな工夫が空間にちりばめられています。特徴的なのは、何かアイデアを思いついたら、まず形にして実験してみるところです。そのための工房も併設しています。

もう一つ興味深いのは、オランダ国税庁内の「シップヤード」。税に関する議論をするためのフューチャーセンターです。おじいちゃん、おばあちゃんの世代から孫や曾孫の世代まで、マクロなスケールで税について考えたり、子どもたちに税金の大切さを教えるにはどうしたら良いのかを議論する場として機能しています。他、銀行などのビジネスセクターでもフューチャーセンターを開設しているところがあります。

紺野登先生や野中郁次郎先生もおっしゃっているように、フューチャーセンターに必要なのは、「空間」、「人」、「方法論」、そして、「ホスピタリティ」があること。これらが一体となって磁場として働いていることがフューチャーセンター。私が3年やってなんとなくわかってきたのは、バランスが大切だということ。素敵なスペースはあるけれど、魅力的な人がいない。人はいるが、方法論がない、など。おもてなしの感覚もない。しっかりと必要な要素のバランスが取れた場、がなかなかないというのが日本の現状です。

たとえ、素敵な空間と魅力的な人がそろっていても、方法論をもって議論をしないとイノベーションを起こすことはできません。フューチャーセンターにおいて、テーマと目的、そして仕掛けを設計できるファシリテーターやディレクターの存在が不可欠なんですね。

とくに私自身が強く感じているのは、日本のイノベティブなスペースは綺麗すぎる、ということです。日本



田口真司氏

のそれに比べ、欧州のフューチャーセンターは、もっと猥雑でグチャグチャしていて、さまざまなものが「こすれ合う」ことでイノベーションが生まれているように感じます。

たとえば、任天堂の「Wii」を企画・開発した玉樹真一郎氏は、あの独自のコントローラーをつくるのに100個を越えて試作してみたという。はんだごてを片手に、皆で議論したと聞いています。まさに、そういうことがフューチャーセンターに求められる姿ではないでしょうか。つまり、対話をし、その場で形にして、こすれ合う場というのが、フューチャーセンターに欠かせない要素だと思います。

—— 国内外のフューチャーセンターの成果について、聞かせて下さい。

櫻井 ● 面白いのが、オランダ・国税局のシップヤードです。ここは、伯爵が住んでいた城を改装した建物なのですが、設立当初、国民はおろか省の職員たちに猛反対されたという経緯があります。ただ、国税局としては、当時、深刻な悩みを抱えていて、それを解決したいと考えていました。というのは、そこには3万人の人が働いているのですが、隣の部署や課で何をしているのか、お互いにまったくわからないという、没コミュニケーションの状況にあったからです。一体全体、国民の血税が本当にきちんと使われているのか、どうやったらもっと税金を有効に活用できるのか、検証する必要がありました。

そうしたなか、このシップヤードでは、いくつかの面白い取り組みがなされました。たとえば、脱税を防ぐにはどうしたらいいのかというテーマで、政治家、官僚などを交えて議論しただけでなく、その対話の場に、元・脱税王を招き入れ、なぜ、脱税をする気になるのか、どう脱税するのか、などを丁寧に聞き取り、対話を行いました。議論の結果、脱税者を厳しく取り締まるよりもむしろ、そもそも脱税させないようなしくみづくりをすることが重要である、ということに皆の意見が集約されました。

また、納税という負のイメージが強い行為に対して、一体どのようにその大切さを子どもに伝えることができるのかを議論し、税の大切さを教えるためのボードゲームをつくりました。このゲームは、実際に小中学校に導入されたそうです。

シップヤードでは、ワークショップ、ボードメンバーを集めた重要な会議、政治家を交えて対話など、ほぼ毎日のように活用され、稼働率は9割を超えていると言います。

当初、省庁内部からも反対されたシップヤードですが、3年ほどで認知されるようになり、すでに10年続いています。

—— フューチャーセンターにおいて重要な考え方は、なんですか？

田口 ● 当たり前のことですが、信頼感は欠かせません。他社の方とコミュニケーションをするときに、ビジネスの場面では、自社に不利益が起こったら困るからと秘



密保持契約を結んだりしてガードを固めますよね。しかし、本来、人との関わりというのはそういうものではないはず。自分が信頼するから信頼関係が生まれるのであって、そういう関係性の中では、それほどひどいことは起こらないように思います。

フューチャーセンターでは、目の前のことというよりも、未来について語ることで、皆が同じ方向を向くことができます。こっちが私の領域、あちらがあなたの領域というような関係性で融合することは難しいけれど、未来についての事柄なら、ステークホルダー同士でも多くの共通項を見つけることができるはず。皆がひとつの方向性に向かうことで、解決できる問題というのは、それこそ数多く存在しているように思います。

いかにしてフューチャーセンターを役立てるか

——フューチャーセンターのテーマ設定として、以下の三つが考えられると感じました。一つ目は、社内の問題。現状は成果主義や独立採算制にとらわれるあまり、同じ会社なのにそれぞれがバラバラにサービスを提供していることがある。そうした課題解決に社内フューチャーセンターが役立ちそうです。二つ目は、既存の製品やサービスを見つめ直す場としてのフューチャーセンター。研究開発からマーケティング、営業、サプライヤーまで含めたバリューチェーンを見直す、よりよい価値を提供する際にもフューチャーセンターは

機能できると思います。三つ目は、消費者や地域社会など、提供者対需要者の関係性を、ともに考え直す場としてのフューチャーセンターです。そのあたり、どのようにお考えでしょうか？

櫻井 ● 今おっしゃったことなかでは、三つ目の消費者や地域社会との関わりというのが、今一番ホットな取り組みでしょうね。

先般、『ワイアード』誌の編集長のクリス・アンダーソン氏が『MAKERS』という本を出版しましたが、その中で、アンダーソン氏は、将来、消費者一人一人が生産者になる可能性を指摘しています。消費者が生産に関わることで、今後20年くらいの間に、サービス業や製造業が、劇的に変わる可能性が出てきたという。つまり、これからの提供者は、消費者や地域社会を巻き込まざるを得ない状況になっていくのだと思います。

もう一つ、これからのモノづくりやサービスは、もっと右脳を活用するスタイルに変化するということ。従来、ビジネスというのは、左脳による論理的なスタイルで進められてきましたが、もはや左脳のみで勝負していたのでは限界が見えてきた。これからは右脳的な手法で、進み方も方法もわからない五里霧中の中を、直感とひらめきに頼りながら航海に出なければならない時代にきているのだと思います。

そして、イノベティブだと言われる企業を数多く見てきたなかで感じるのは、今の時代に成功している企業は、航海に似たアプローチをとっているな、というこ

と。そうしたなかでフューチャーセンターは大いに機能できるだろうと思います。

いずれにしても、バリューチェーンの見直しや、消費者や利用者との関係をつなぐなかで、これからフューチャーセンターが担う役割というのは今後、大きくなっていくことは間違いありません。

どのようにアクションにつなげるか？

——ここまでお話をお聞きしてきて、職場で具体的にどうアクションを起こせばいいのか、迷うところかと思えます。まずはどんなことをしていくべきでしょうか？

櫻井 ● まずは、営業会議や企画会議で、爆弾を投下してみてください。会議の席で、こんなことは絶対に言っちゃダメだ、ということをあえて言うのです。と言っても、いきなりやるとリスクなので、場所をカフェに移したり、皆にネクタイを外してもらったり、いつもの文脈を外したなかでやるといいでしょう。会議机を外すだけでも、創造性がぐっと増します。あるいは、「今日は部長さんは発言禁止です」と言って、○×だけで示してもらおうとか。議論の中に、そういったゲーミフィケーション(ゲーム化)の要素を取り入れることで、当たり前や常識を崩していく。それができるようになると、少しずつ組織が柔らかくなっていくように思います。

そして、エコツェリアに、つねに住人がいる感じだとさらに面白いですね。バーのマスターみたいな(笑)。そもそも、イノベーションが生まれるようなスペースには、必ず主がいるんですね。その人に聞けば、その場のことは何でもわかる、ハブ的な存在がいることが重要です。

それから、クリエイティブな空間だなと思うところには、必ずといっていいほどキッチンがある。簡易キッチ

ンで、コーヒーやシリアルが置いてある程度でもかまわないのですが、そこがハブになって、人が集まり、コミュニケーションが生まれ、アイデアの創発につながっているように思います。そういう意味で、エコツェリアもイベントのときだけでなく、つねに人がモヤモヤと動いているような場所になれば、もっと魅力的になるのではないのでしょうか。

——最後に、今後この大丸有エリアのフューチャーセンターができたとして、どんなことをやってみたいですか？

田口 ● 企業というのは利益を生み出すためにあるわけですが、その利益は本来、社会貢献の量だと思えますね。ところが社会貢献以上のお金を得ようとしてきたことで歪みが出てきたのではないのでしょうか。そうしたことから、今一度、企業の原点に立ち返って、どう社会に貢献していくのか、考えてみたいですね。現状は企業中心ではあるけれど、今後はお年寄りや子ども、外国人なんかも巻き込んで、多様性の中で社会貢献できる場を生み出していきたい、と思います。

櫻井 ● 僕のイメージとしては、大きな船に全員が乗って漕ぎ出すのではなく、小さな船でそれぞれがいきいきできるような方向性を探ってみたいですね。つまり100社あれば、100個のプロトタイプができて、やってみると。先ほどのバーのマスターのような存在もそれぞれに育ち、それぞれの船で漕ぎ出すことで、全体としていきいきとした地域にできたら嬉しいですね。

——本日は、長時間にわたり、さまざまなお提案をいただきまして、誠にありがとうございました。

構成・文＝田井中麻都佳



櫻井亮(さくらい・りょう)

日本ヒューレッド・パッカードにて、マーケティング、経営企画、新規事業などを経て、投資育成会社へ転職。2007年より、株式会社NTTデータ経営研究所マネージャー兼デザイン・コンサルティングチームのチームリーダー。

田口真司(たぐち・しんじ)

通信ネットワーク系SE、新規ビジネス開拓などの仕事をする傍ら、2010年に対話イベントを開始、2011年には企業間フューチャーセンター有限責任事業組合(LLP)を設立。2013年2月よりエコツェリア協会勤務。

CSR活動一覧表

凡例 ○ = 大いに取り組んでいる ○ = 取り組んでいる

	旭化成ホームズ株式会社	旭硝子株式会社	株式会社イトーキ	株式会社大林組	鹿島建設株式会社	企業間フューチャーセンター-LLP
ガバナンス						
社内でのコンプライアンス意識の徹底	○	○	○	○	○	○
経済						
気候変動に対する経済的リスクの評価	○	○	○	○	○	
環境						
リサイクル由来の原材料の使用推進	○	○	○	○	○	
エネルギー使用量削減の推進	○	○	○	○	○	
エネルギー効率の高いあるいは再生可能エネルギーに基づく製品およびサービスの提供	○	○	○	○	○	
水源の環境的調査			○	○	○	
取水量の削減の推進		○	○	○	○	
水の再利用の推進		○	○	○	○	
生物多様性の価値が高い地域での生物多様性向上に向けた活動	○		○	○	○	
生物多様性の観点からの、製品およびサービスの著しい影響の説明			○	○	○	
生物多様性への影響をマネジメントするための戦略、現在の措置および今後の計画	○	○	○	○	○	
事業によって影響を受ける地区内の生息地域に生息するIUCN（国際自然保護連合）のレッドリスト種（絶滅危惧種）および国の絶滅危惧種リストの数。絶滅危険性のレベルごとに分類			○	○	○	
直接および間接的な温室効果ガスの総排出量の把握	○	○	○	○	○	
温室効果ガス排出量削減のための率優先的な取り組み	○	○	○	○	○	
NOx、SOx およびその他の著しい影響を及ぼす排気物質の削減への取り組み	○	○	○	○	○	
水質および放出先ごとの総排水量の削減	○	○	○	○	○	
廃棄物の削減	○	○	○	○	○	○
環境問題およびCSRの社内啓蒙	○	○	○	○	○	○
製品およびサービスの環境負荷低減への取り組み	○	○	○	○	○	○
梱包材などの削減の取り組み	○	○	○	○	○	○
原材料の輸送での環境負荷の低減	○	○	○	○	○	
社会						
経営管理職および従業員の、性別、年齢、マイノリティーグループなどの雇用推進		○	○	○	○	○
従業員のカテゴリー別の、基本給与の男女比の平等化		○	○	○	○	
児童労働の防止への貢献		○		○	○	
先住民の権利保護への関与				○	○	
社会、環境問題解決を目的としたNPOとの協働		○	○	○	○	○
CSR活動の、サプライチェーンの巻き込み	○	○	○	○	○	○
地域の問題解決を目的とした地域との連携	○	○		○	○	○

2012年12月、本ワークショップの参加企業を対象に、それぞれの自社のCSR活動の活動領域についてのアンケートを行い集計したデータをもとに作成した一覧表です。あくまで本ワーキング参加者の意見であり、各企業の公式発表ではありませんので、ご注意ください。

	小岩井農牧株式会社	株式会社サンケイビル	清水建設株式会社	ダイキン工業株式会社	大成建設株式会社	株式会社竹中工務店	株式会社ティップネス	一般財団法人電力中央研究所	株式会社東京国際フォーラム
	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
			◎	◎	◎	○		◎	
	○	○	◎	○	◎	◎		○	
	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○
	◎		○	○	○	○	◎		
	○		○	○	○	○	◎	○	○
	○	○	○	○	○	◎	◎		○
	◎		◎	◎	◎	◎			
			○	○	○	◎			
			◎	○	○	◎			
			○		○	○			
	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎
	○		◎	◎	◎	◎		○	○
			○	○		○		◎	
	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	○
	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○
	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎		○
	○		◎	◎	○	◎	○		
			◎	◎	○	◎			
	○	◎	◎	◎		◎	○	○	
	○	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	○
			○	○					
			○	○	○	○			
		○	○	○	○	○			
	◎	○	○	○	○	○		○	○

CSR活動一覧表

凡例 ○ = 大いに取り組んでいる ○ = 取り組んでいる

	東テク株式会社	トーマツグループ	戸田建設株式会社	株式会社日本政策投資銀行	日本郵船株式会社	バイエルマテリアルサイエンス株式会社
ガバナンス						
社内でのコンプライアンス意識の徹底	○	○	○	○	○	○
経済						
気候変動に対する経済的リスクの評価	○				○	○
環境						
リサイクル由来の原材料の使用推進			○	○	○	○
エネルギー使用量削減の推進	○	○	○	○	○	○
エネルギー効率の高いあるいは再生可能エネルギーに基づく製品およびサービスの提供	○		○	○	○	○
水源の環境的調査			○			
取水量の削減の推進			○	○	○	○
水の再利用の推進			○	○		○
生物多様性の価値が高い地域での生物多様性向上に向けた活動		○	○	○	○	
生物多様性の観点からの、製品およびサービスの著しい影響の説明			○	○	○	○
生物多様性への影響をマネジメントするための戦略、現在の措置および今後の計画			○	○	○	○
事業によって影響を受ける地区内の生息地域に生息する IUCN（国際自然保護連合）のレッドリスト種（絶滅危惧種）および国の絶滅危惧種リストの数。絶滅危険性のレベルごとに分類						
直接および間接的な温室効果ガスの総排出量の把握	○	○	○	○	○	○
温室効果ガス排出量削減のための率優先的な取り組み	○	○	○	○	○	○
NOx、SOx およびその他の著しい影響を及ぼす排気物質の削減への取り組み			○		○	○
水質および放先ごとの総排水量の削減					○	○
廃棄物の削減	○	○	○	○	○	○
環境問題および CSR の社内啓蒙	○	○	○	○	○	○
製品およびサービスの環境負荷低減への取り組み			○	○	○	○
梱包材などの削減の取り組み		○	○	○	○	○
原材料の輸送での環境負荷の低減			○		○	○
社会						
経営管理職および従業員の、性別、年齢、マイノリティーグループなどの雇用推進	○	○	○	○	○	○
従業員のカテゴリー別の、基本給与の男女比の平等化	○	○	○	○	○	○
児童労働の防止への貢献			○		○	○
先住民の権利保護への関与						
社会、環境問題解決を目的とした NPO との協働		○	○	○	○	○
CSR 活動の、サプライチェーンの巻き込み			○	○	○	○
地域の問題解決を目的とした地域との連携		○	○	○	○	○



2012年度CSRイノベーションワーキンググループ活動報告書「エコのまど」

発行日：2013年3月

発行：エコツェリア協会（一般社団法人 大丸有環境共生型まちづくり推進協会）

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸ビル10階

Email: conciierge@ecozeria.jp

エコツェリア協会 <http://ecozeria.jp/>

丸の内地球環境倶楽部 <http://www.ecozeria.jp/earth/>